

神戸で危機管理を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

「みにむ」の2月1日発売号の開倫塾の時間のページの最後、「おわりに」に次のように書かせて頂いたのを覚えていらっしゃる方も多いと思う。即ち、『冬は暖冬、夏は冷夏、地震の頻発する新年であるとの予想をしているが、これに加えて住専関連の金融機関のクラッシュが予想される。政府が上手に対応策を出し切ることを期待したいが、日本経済にとって長い冬の時代の始まりが本年であると予想できるので、読者の皆さんも、ここ何年間かはどんなことがあっても驚かないよう万全の準備をして臨んで頂きたい。取るべき基本動作は随分書かせて頂いたので、わからなくなったら「みにむ」を読み直して頂きたい。とにかく誰も助けてはくれないので、自分自身ががんばるしかない』

* 「みにむ」の95年2月1日号41ページより引用。

この原稿を編集部に渡したのは、もちろん1月17日前であったが、随分的確な指摘をしたねと何人かの方から言われた。私は月間に20以上は程度の高いと思われる勉強会・研究会に出席し、自分に足りないものを補うことをここ何年か心掛けているが、その一つに前にも紹介したペガサスクラブがある。毎年6月と11月に政策セミナーがあり、ここ3年間位は、マネジメント・ディベロップメント・コンサルタントで元米国エクソン社重役の柴崎菊雄先生から異常づくめの自然・気象現象のお話を聴いていた。特に昨年11月末の勉強会では、95年度に関東大震災規模の大地震の発生する可能性を強く指摘しておられた。ペガサスクラブは、日本のチェーン化志向企業がすべて入会し、勉強しているため、当然「緊急事態対策」のセミナーも開かれ、専門書も出版されているため、主力会員であるダイエーやローソン、神戸灘生協も政府以上の素早い対応をしたのではないかと思う。勉強をしていないところはすべて対策が実現できないことは経験則上明らかだからだ。

「冬は暖冬・夏は冷夏と書かせて頂いたが、なぜこのようなことをこの人は書くのだろう、もし冷夏であったら我が社はどのような対策をとればよいのだろうと考えて頂きたい。更に来年の冬と夏はどうなるだろう、その時我が社はどのような対策を立てたらよいだろう、とも考えて頂きたい。

『地震の頻発する新年』という表現を見たら、関東地方南部のみならず北関東での地震の可能性はどうか、もし、阪神大震災並みの地震が当地域で発生したら、どうしたらよいかと考えて頂きたい。

『住専関連の金融機関のクラッシュが予想される。政府が上手に対応策を出し切ることを期待したいが……』とも書かせて頂いたが、何の話か判らない人は、十分金融に詳しい人から話をうかがって、もし政府が対策を構じない場合は日本の金融市場はどうなるのかを自分のこととして考えて頂きたい。

4月以降に株の価格が大幅に下がることが予想されるが、株をもたれている方以外も、そのことが自分たちの生活にどのような関係があるかを考え、打てる手を打っておく必要がある。

* 情報には様々なものがある。自分自身で直接体験した1次情報。ごく親しい人から直接聴いた2次情報。セミナーや講演会・研究会でその道の専門家から得た3次情報。雑誌・新聞・ラジオ・テレビによって伝えられる4次情報。最も信頼できるのは、1次情報で、4次に近づくにつれ詳しくなくなり大雑駁になる。テレビ・各新聞の見出しを集めた番組やワイドショーなどその極

致といえる。自分で足を運んで歩き回って得た情報がその人にとって最も有用で、価値がある。昨年来、失礼を承知の上で書かせて頂いている内容は、拙ないかもしれないが私自身が集めた様々な情報のうち、皆様に役立つであろうと思われるものをまとめ、その結論だけ示させて頂いたものが多い。気になるところがあれば、是非あとは御自分自身で調べられ、生活の向上に御役立てて頂きたい。前書きが長くなったが、今回は神戸で考えたことを報告する。

2. まず神戸に行ってみよう

私自身が学習塾を経営する上で、10年来いろいろ教えを受け続けている東灘区に本部のある山本塾・山本先生御夫妻のお見舞に御自宅のある芦屋に行かせて頂いたのは、地震10日後であった。想像を絶する破壊状況に息を飲み続けて1日を過ごした。神戸で考えたことを以下述べる。

行政の責任ある立場の方は、月に1回は神戸を訪れるべきと考えた。知事をはじめ市長村長はこれから3～4年間、月に1回は神戸を訪問し、(復興の邪魔になるので相手の同識者を訪ねなくてもよいから)町だけでも視察しつつ頂きたい。県会議員、市町村会議員の方も、統一地方選挙の前に一度、選挙後には4月から毎月1回、3～4年間神戸を視察に訪れて頂きたい。行政の中で防災の実務担当者も、月に1回は神戸を視察しつつ頂きたい。視察には予算が伴うが、日帰り分の交通費だけでもよいから、予算をつけて頂きたい。予算が出なければ行かない、というのではなく、予算が出なかったら、是非自費でも毎月視察に行って頂きたい。(公務員とはそのような職種だと思う)

*大災害とはどのようなものを現実認識するためには、現地に通い続けるしかない。大災害後どのように復興するかを知るためにも現地を定期的に視察し続けるしかない。後日出版されるであろう何千ページの報告書やマニュアルを読んでも毎日視察しつつ頂けたのと、1～2度行ってお茶をにごしているのとでは、理解の度合いが格段に違う。責任者の視察回数が市民の安全な生活の構築に直接影響するからだ。

会社や各種団体の経営・運営責任者や幹部職員の方は、関西もつとと言えば名古屋以西を訪れる際には、必ず神戸にまで足を伸ばして、物事を考えるクセをこの3～4年間は継続するべきかと思う。名古屋から西に行く機会のほとんど無い方は、3～4月の間に1～2回と、あとは、ワン・シーズンに1回ぐらいずつ計画を立て神戸を訪問すべきかと思う。

一般の方も、是非何回かは、神戸を訪れ、大災害とはどんなものが視察するとよい。勉強の材料は山のように転がっている。

山本先生の忠告によれば、被害後最も必要なものは、家族一人につき1コの水くみ用のポリ容器と一人につき10kgのお米だそう。水を確保するポリ容器と10kgのお米さえあれば、あとは何とかなるとおっしゃっていた。皆さんの御家族でも両者の常備をおすすめする。

会社や団体を運営する方は、コンピューターのソフトを必ずコピーし分散して保管することをおすすめする。大きなところではやっているが、規模が小さいところほど頭が回らずやっていないのが現状。ハード・ディスクにデータが蓄積された場合、フロッピーに落として別の場所に保管

していなければ、一瞬でそのデータは使えなくなり、大障害を起こす。

何が一番欲しいですかと、質問したら、「そりゃあ、現金が一番欲しい」とおっしゃっていました。他のサービス業も同じだろうが学習塾の場合、大地震の後、授業ができないのであれば月謝はもらいにくいし、月謝が頂けなければ職員の皆さんに給与も支払えない。銀行におたのみして、職員の給与の何ヵ月分かはお借りする以外はないのかも知れない。取引もなく急に行ってもなかなかお借りしにくいと思うので、日頃から銀行とも良好な取引関係を築いておくことが大切かと思う。

隣近所の人々の有難さを知ったと、建物の崩壊を免れた山本先生のお宅に避難していらっしゃった方々が口をそろえておっしゃっていた。平常から、地域社会の人と仲良くしておくことが一番大切かも知れない。

3 . おわりに

人間は問題意識を持ち学習さえすればいくらでもよい状態になる。危機の状況でも、耐え忍び、切り抜け、以前にも増してよい状況を作り上げることができる。日本国中の豊かさを総結集して、神戸を復興させようと国中で思っているし、又神戸の方も命を懸けて自らの生活と地域を守ろうとしている、その二つの力が結集して、必ず素晴らしい復興が3～4年後に実現すると信じる。我々は、おじやまにならないように毎月1回ずつ復興ぶりを視察させて頂き、同じような災害が起こったときの対処の仕方を学ばせて頂きたいと思う。神戸で危機管理を考えることをおすすめする。

建築関係の方も自分の仕事だと思って神戸が復興するまで通いつめてください。